

日本の新進作家展 vol.7 **オン・ユア・ボディ**  
on your body  
contemporary japanese photography

会場 : 東京都写真美術館2F展示室  
開催期間 : 2008年10月18日(土)~12月7日(日)  
主催 : 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞  
助成 : 財団法人地域創造 / 財団法人アサヒビール芸術文化財団  
協賛 : 株式会社ワコール / 凸版印刷株式会社 / 富士フイルム イメージング株式会社 / キヤノン株式会社  
協力 : アサヒビール株式会社 / フォトグラファーズ・ラボラトリー / 株式会社カラーサイエンスラボ / フォト・ギャラリー・インターナショナル



#### 開催にあたって

東京都写真美術館は写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場となるよう、様々な事業を展開しております。その中核となるのが、平成14年より開催している日本の新進作家に焦点をあてたシリーズ展「日本の新進作家展」です。

第7回目となる本年は、「身体」をテーマに、国内外で活躍する日本人女性新進作家6人をご紹介します。

「身体」にまつわる問題は、仮想的空間が強まる現代にあって、逆にますます現代人を捉えて放さないテーマとなっています。そうした現代写真・映像・美術の最先端を様々な角度から検証している、今もっとも勢いのある女性新進作家を取り上げることで、日本の「今」を浮かび上がらせます。

#### 出品アーティスト

朝海陽子	澤田知子	
塩崎由美子	志賀理江子	
高橋ジュンコ	横溝静	計6名

#### 出品作品数

77点(予定)

#### 本展の見どころ

東京都写真美術館が目指す、将来性のある新進作家を一堂にご紹介します

今年で第7回目となった東京都写真美術館「日本の新進作家展」は、写真美術館が将来性のある新進作家をご紹介する恒例のアンニアル展です。本年度の木村伊兵衛写真賞を受賞した志賀理江子をはじめ、これからさらなる活躍が期待される作家を選りすぐり、一堂にご紹介します。

テーマは〈身体〉

女性の社会意識の変化により少子化・晩婚化が進み、また一方では、インターネットなど仮想空間によるコミュニケーションが新たな社会を成立させている昨今、〈身体〉は人間に残された最後の、自分自身がコントロールのきく場であり、また現実との戦いの場でもあります。〈身体〉をテーマに表現する作品にふれることで、〈あなたの身体について(on your body)〉も考えるきっかけとなることでしょう。

出品作家はすべて女性です

今回は6人の女性作家が出品します。〈身体〉をテーマに表現活動をする作家を選出したとき、いかに女性が多いのかがわかりいただけることでしょう。また、6人中の4人が、若くして海外に飛びだし作家活動をしています。女性の生き方や、社会における在り方を〈身体〉を通して実感できる展覧会だといえるでしょう。

新作および近作を多数展示します

この展覧会には、すべての作家が新作を出品するほか、話題の近作もあわせてご紹介します。めざましい創作活動を続ける作家たちの現在進行形をお楽しみください。

## 作家紹介

朝海陽子 Asakai Yoko

1974年東京生まれ。アメリカのロードアイランド・スクール・オブ・デザインで学び、1998年同校卒業。アメリカで発表した「The Book of Memory」展を、1999年東京のギャラリー・Moleで発表する。2003年清里フォトアートミュージアムの「第8回ヤングポートフォリオ」展に選出される。2007年に海辺の遠景をテーマにした「Trigger」を(ツアイトフォトサロン)、2008年にはコニカミノルタの「フォト・プレミオ」で、自宅で映画を観ている人たちの表情を写した「Sight」を発表し、2007年度コニカミノルタ 第9回フォト・プレミオ特別賞を受賞する。上海美術館、清里フォトアートミュージアムに作品が収蔵されている。川崎市在住。



「ホームアローン, Tokyo」2007

澤田知子 Sawada Tomoko

1977年兵庫県生まれ。成安造形大学在学中の2000年にキヤノン写真新世紀2000特別賞受賞。翌年、成安造形大学研究生卒業し、2007年、母校の客員教授に就任する。2004年には第29回木村伊兵衛写真賞および第12回国際写真センター若手作家賞(The Twentieth Annual ICP Infinity Award for Young Photographer)、兵庫県芸術奨励賞、2005年神戸市文化奨励賞、2005年ブルーメール賞、2007年第26回京都府文化賞奨励賞、2008年第24回東川賞新人賞を受賞するなど、日本を代表する若手写真家として高い評価を受けている。「グローバル・フェミニズム」展(ブルックリン美術館、2007年)や「Girl! Girl! Girl!」展(東京オペラシティアートギャラリー、2003年)、「Keep In Touch - Positions in Japanese Photography」(カメラ・オーストリア、グラーツ、2003年)など、国内外からのグループ展への招聘も多数。2007年から拠点をニューヨークに移し、活発な制作活動を展開している。



「TIARA」2007



塩崎由美子 Shiozaki Yumiko

1954年埼玉県浦和市生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業後、1993年に文化庁芸術家在外海外派遣員として英国とスウェーデンに学び、ストックホルム王立工科大学等で客員芸術家として制作し以後、写真とホログラフィを使った独自のスタイルを確立し、国内外で多くの個展・グループ展を開催、ストックホルムを拠点に活動を展開している。近年はワークショップにも力を入れ、「病院とアート」と題するセミナーを企画するなど、医療現場におけるアートの可能性を探る活動やスウェーデンと日本の文化交流にも積極的に取り組んでいる。主なコレクションに栃木県立美術館、ふくやま美術館など。ストックホルム在住。

「Una 2003」2006

志賀理江子 Shiga Lieko

1980年愛知県生まれ。2004年、ロンドンのチェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業。2007年末に出版した二冊の写真集『CANARY』(赤々舎)と『Lilly』(アートビートパブリッシャーズ)で第33回木村伊兵衛写真賞を受賞する。「Rapt! Contemporary art from Japan」展(セヴンス・ギャラリー、メルボルン、2006年)や「Re:search: Art collaboration of Australia and Japan」展(せんだいメディアアテック、2006年)、「BMW Young Asian Artist Series」展(タイラー・プリント・インスティテュート、シンガポール、2007年)、「Unseen」展(上海当代美術館、2008年)、「トレース・エレメンツ - 日豪の写真メディアにおける精神と記憶」展(東京オペラシティアートギャラリー、2008年およびパフォーマンス・スペース・アット・キャリアージュワークス、シドニー、2009年)など、注目の新進作家として国内外での多くのグループ展に招待されている。2005年ミオ写真奨励賞審査員特別賞受賞。ロンドン在住。



「千愛子」2007

高橋ジュンコ Takahashi Junko

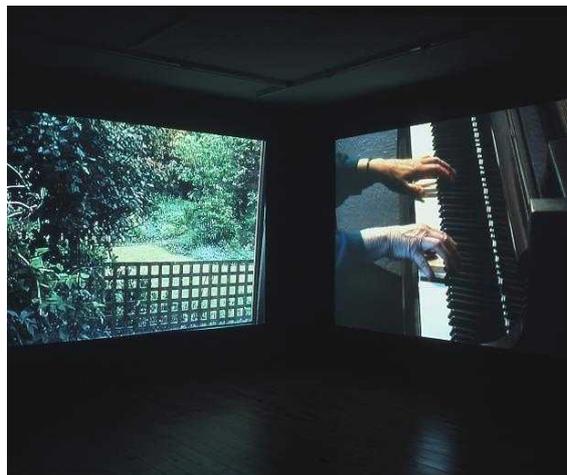
1962年東京生まれ。1984年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。1989年の初個展を皮切りに、現在まで、精力的で息の長い活動を続けている。1993年にキヤノン写真新世紀で優秀賞を受賞。1998年には3冊の写真集『スクールデイズ』(新潮社)、『Y's Eyes』(読売テレビ)、『Trans Body Bondage』(ワイレア出版)を発表し、特に美術教師の経歴を生かし、高校生の身体や生活を構成的に表現した『スクールデイズ』で注目を浴びた。2006年、日本の大手企業の受付嬢を現場でセッティング撮影した写真集『The Receptionist』(ナツラエリ・プレス)を出版。近年は写真作品だけではなく映像作品にも挑み、2007年には横浜美術館の「水の映画会」やイメージフォーラムの「あにはからんや 00年代ドキュメンタリー傑作選」に選出されている。横浜市在住。



「Tokyo Mid 2」2006-2008

横溝静 Yokomizo Shizuka

1966年東京生まれ。1989年に中央大学文学部を卒業後(哲学専攻)、ロンドンのチェルシー美術大学で彫刻を学び、1995年、ゴールドスミス大学で修士課程修了。1997年に「Sleeping」と「Light」と題する二つのシリーズをワコウ・ワークス・オブ・アートとタカ・イシイ・ギャラリーで同時発表し、日本で鮮烈なデビューを果たした。2003年の第50回ヴェネチア・ビエンナーレでは芸術監督フランチェスコ・ボナミが企画した「Clandestines」展に映像作品「Forever (and Again)」が招待され、注目を浴びる。見知らぬ他人を窓越しに撮った「Stranger」のシリーズや、写真と映像の両方で展開する「Phantom」シリーズなど、コンセプチュアルな作品で定評がある。テート美術館トリエンナーレ(2003)、国際写真センター(ニューヨーク、ICP)でのグループ展他、国内外での多くのグループ展多数。ロンドン在住。



「Forever (and again)」2003  
©芸術新潮 広瀬達郎(2003)

## 展覧会図録のご案内

展覧会の開催にあわせて、出品リスト、全出品作品の図版、アーティスト・ステートメント、そして東京都写真美術館学芸員 笠原美智子のテキストを掲載した、展覧会図録をご用意しています。

『日本の新進作家展 vol.7 オン・ユア・ボディ』

編集:東京都写真美術館

10月18日(土)より当館ミュージアムショップにて発売(価格未定)

## 関連事業

展覧会に関連したさまざまなイベントを開催いたします。展示や作品をより深く理解し、出品作家とのふれあいを楽しめる企画です。どうぞふるってご参加ください。

### 連続レクチャー「女性と表現」

第1回 11月27日(木) 小勝禮子(栃木県立美術館学芸課長)

第2回 11月28日(金) 鈴木杜幾子(明治学院大学文学部芸術学科教授)

第3回 12月5日(金) 北原恵(大阪大学大学院文学研究科准教授)

時間:18:30~20:00

定員:各回70名

会場:東京都写真美術館1階アトリエ

展覧会チケットの半券(当日消印)をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。

当日10:00より2階展示室前受付にて整理券を配布します。番号順入場。自由席。

### 出品作家によるフロア・レクチャー

会期中の第2・第4金曜日14:00より担当学芸員および出品作家による展示解説を行います。展覧会チケットの半券(当日消印)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

10月24日(金) 澤田知子・塩崎由美子・横溝静

11月14日(金) 高橋ジュンコ

11月28日(金) 朝海陽子・志賀理江子

## 開催概要

展覧会名:日本の新進作家 vol.7「オン・ユア・ボディ」

会 期:2008年10月18日(土)~12月7日(日)

会 場:東京都写真美術館2F展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

ホームページ [www.syabi.com](http://www.syabi.com) 電話 03 3280 0099(代表)

JR恵比寿駅東口より徒歩7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分

開館時間:10:00~18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館30分前まで

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日)

観覧料:一般700(560)円/学生600(480)円/中高生・65歳以上500(400)円

( )は20名以上団体および東京都写真美術館友の会

小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

第3水曜日は65歳以上無料

## お問い合わせ先

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 (恵比寿ガーデンプレイス内)

電話:(03)3280-0034 ファックス:3280-0033

企画担当:事業企画課 笠原 美智子(からはら みちこ) [m.kasahara@syabi.com](mailto:m.kasahara@syabi.com)

丹羽 晴美(にわ はるみ) [h.niwa@syabi.com](mailto:h.niwa@syabi.com)

石田 留美子(いしだ るみこ) [r.ishida@syabi.com](mailto:r.ishida@syabi.com)

広 報:事業企画課 久代 明子(くしろ あきこ) [a.kushiro@syabi.com](mailto:a.kushiro@syabi.com)

米田 智子(よねだ ともこ) [t.yoneda@syabi.com](mailto:t.yoneda@syabi.com)

### <プレス用掲載図版について>

このリリースに掲載されている図版を、プレス掲載用としてデータにてご用意しております。

ご希望の方は、上記広報担当までお問い合わせください。